

## 2. 呼吸器病センター 呼吸器内科

呼吸器内科部長 飛野和則

2024年は、15名のスタッフと3名の専攻医で診療にあたりました。入院を要した疾患で最も多かったものは2023年と変わらず肺癌で、2番目は感染症、そして3番目が間質性肺疾患でした。

肺癌については、2024年度も新薬や新たな治療レジメンが使用可能となりました。特に周術期（術前、術後）の治療レジメンに大きな進歩があり、我々も速やかに導入しております。治療方針の決定は年々難しくなっており、呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科・呼吸器外科・呼吸器腫瘍外科・放射線治療科・画像診療科とともに週に2回カンファレンスを行い、個々の患者さんにとって最適な方針を協議しております。

間質性肺疾患については、昨年引き続き二つ目の新薬の治験を行いました。福岡県内でも数施設しか行われていない治験であり、筑豊地区の患者さんに日本でもいち早く新薬をお届けできることを非常に嬉しく思っております。皆様のご協力のおかげであり、感謝申し上げます。

喘息については慢性呼吸器疾患看護認定看護師とともに生物学的製剤導入を積極的に進めております。現在5種類の生物学的製剤があり、いずれも当科で使用可能となっております。自己注射を指導し3か月の長期処方とすることで患者さんの医療費負担を軽減することもできますので、管理に難渋されている患者さんがいらっしゃいましたら、いつでもご紹介ください。

これからも我々は知識と技術のアップデートを日々行い、最新の診療を提供できるよう努力してまいります。学会発表、論文発表のアクティビティも保っており、2024年も当科のメンバーが関わった英語論文を20本publishすることができました。また、「筑豊呼吸器 RENKEI の会」も再開でき、先生方とお顔を合わせることもできました。ますますの連携をお願い申し上げます。

今後もこれらの活動を通じ、診療の質の向上、地域医療の発展、飯塚発のエビデンス構築につなげてまいります。

### 1) 入院患者疾患別内訳（2024年）

疾患	延べ症例数	疾患	延べ症例数
総数	1,716	間質性肺疾患	229
腫瘍性疾患 (内訳)	828	(内訳) 特発性・膠原病関連・薬剤性	219
		放射線肺炎	3
		その他	7
		気道疾患	139
		(内訳)	喘息
感染症 (内訳)	341	COPD	62
		気管支拡張症	7
		気胸	72
		胸水	13
		喀血・血痰	16
		睡眠時無呼吸	18
		その他	60
		肺炎 / 肺化膿症	235
胸膜炎 / 膿胸	30		
気管支炎	4		
結核 / 結核疑い	2		
COVID-19	31		
その他の感染症	39		

内視鏡検査（気管支鏡、胸腔鏡）実績表				
	2021年	2022年	2023年	2024年
総件数	366	368	456	454
観察、痰吸引、気管洗浄	350	351	433	437
直視下生検	7	17	25	15
末梢擦過および生検	183	142	157	133
BAL	53	81	105	97
EBUS-TBNA	24	40	59	41
EBUS-GS	53	58	93	133
クライオ生検	36	51	55	69
EWS 充填	17	3	5	4
ステント留置	0	0	0	0
悪性腫瘍に対する 気管支鏡での診断率	87.8% (195/222)	92.8% (207/225)	89.0% (242/272)	74.0% (202/273)